

たときは、正式にこれを受理する。苦情の申告を受理した委員会または会議において、関係長の権限その他の理由で苦情を解決することが適当でない場合には、その直属する上級会議にその旨を報告し、その解決を当該上級会議に移すこととなる。以下解決することが適当と認められる会議において受理されるまで、順次上級会議に報告上移される。

申告または前記の報告を受けつけた委員会または会議は、解決する権限のある事案についてはこれを受理し、つぎの期間内に解決処理することとなっている。

委員会 1 週間、地区会議 2 週間、地方会議 3 週間、中央会議 4 週間。

以上の期間内に解決できない場合は、上級会議に報告し解決を上移する。この手続によって解決の上移を受けた会議の処理は最終で、これ以上は上移されない。

すなわち苦情の処理は 2 審制であるが、中央会議に至って始めて受理された苦情は当然 1 審で終ることとなる。

委員会または会議の解決または却下に異議のあるときは、その直属の上級会議に対し、異議の申立てをすることができる。これは解決または却下の通知のあった日から 10 日以内に申立てなければならないことになっており、この申立てを受理した会議は最終の段階となる。

4 苦情処理時間

勤務時間中に苦情処理を行うときは、委員会の場合は 1 週間に 5 時間、会議の場合は 1 週間に 8 時間となっている。

5 秘密の厳守

苦情は人事問題等にふれる場合が予想されるので、委員会および会議は非公開を原則とし、委員および関係者は秘密厳守の義務がある。

6 効力

国鉄ならびに苦情申告者、異議申立者およびそれぞれの所属する組合は、この協約に定める苦情処理手続によって最終的に決定された事項を、責任をもって実施しなければならないことになっている。

参考文献 河村勝著 苦情処理機構。(荒井義雄)

くしろりんこうてつどう 釧路臨港鉄道

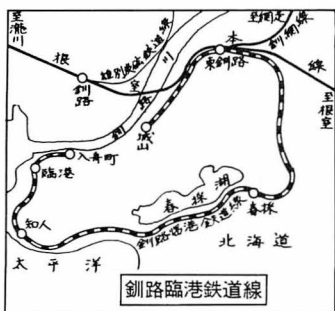
1 事業者の概要

名称 釧路臨港鉄道株式会社、本社 北海道釧路市港町、資本金 4,000 万円、おもな事業 地方鉄道業、従業員 195 人、保有車両蒸気機関車 6、内燃動車 1、客車 2、貨車 75 両。

沿革 大正 12・6 根室本線東釧路、入舟町間の鉄道敷設免許を受け、同年 12 月釧路臨港鉄道株式会社を設立、同 14・2 から営業を開始し現在に至る。

2 地方鉄道線

開業線 根室本線東釧路駅に連絡し、城山から東釧路を経由入舟町に至る延長 11.5km の単線、動力は蒸気、軌間は 1,067m で旅客・貨物運輸の鉄道である。東釧路・入舟町間 9.3km は大正 12・6・18 免許、同 14・2・11 春採・知人間を運輸開始、その後逐次東釧路、臨港に延長し、昭和 2・2・20 入舟町まで開業した。また東釧路・城山間 2.2km は昭和 2・12・15 免許を受け、同 12・



1・10 運輸開始した。

3 沿線の観光地

モンリヤチヤシコツ(お供山)、アイヌ族の旧城址(城山駅)。

4 運輸概況

年 目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	427	579	466
人キロ(千)	3,423	3,028	1,843
貨物輸送トン数(千t)	969	1,030	1,083
トンキロ(千)	5,223	5,661	5,334
旅客収入(千円)	4,059	3,971	3,643
貨物収入(〃)	113,409	119,525	126,291
運輸雑収(〃)	1,871	2,041	2,693
収入合計(〃)	119,339	125,537	132,607
営業費(〃)	111,385	114,581	114,299
営業利益(〃)	7,953	10,956	18,308
営業係数(%)	93	91	86

(志村幹雄)

くんだり 下り 鉄道用語としてはつぎの場合の略称として用いられる。

1 下り列車 原則として東京に向うのを上り列車、これと反対方向に運転する列車を下り列車といい、下り列車には奇数の番号を使用する。

2 下り勾配 列車の進行方向に下りの勾配をいい、反対の列車には上り勾配となる。

3 下り込み 相当長い下り勾配線の終端をすぎて、まもなく停車場がある場合、その列車がそこに到着する状態を下り込みという場合がある。速度の調節に特別の注意を要する。

4 下り本線 複線区間では上り本線と下り本線とを区別し、単線区間でも停車場内は区別している。その下りの方をいい、単に下り線ともいう。→上り。(橋本武司)

くはいきゅう 区配給 車両の保守に必要な材料を工場用品倉庫(または資材用品庫)から区(客車区、貨車区など車両関係区)に配給すること。

区配給を行うには、各鉄道工場の受持範囲がきめられている。これを区配給受持区域といい、国鉄総裁達示によって示されている。(石黒 寛)

くびきてつどうじどうしゃ 頸城鉄道自動車

1 事業者の概要

名称 頸城鉄道自動車株式会社、本社 新潟県中頸城郡大湊村、資本金 10,000 万円、おもな事業 地方鉄道業のほか一般乗合旅客自動車運送事業路線 695 km、一般貸切および一般乗用旅客自動車運送事業。鉄道従業員 52 人、保有車両蒸気機関車 1、内燃機関車 2、内燃客車 3、客車 8、貨車 22、除雪車 2 両。

沿革 新潟県中頸城郡北部および東頸城郡の交通の便を図るため、大正 1・8 新黒井・浦川原間の鉄道敷設の免許を受け、同 2・4 資本金 22 万円の頸城鉄道として発足し、その後バス事業の免許を得、昭和 19・5 現在の社名に変更した。

2 地方鉄道線

開業線 新潟県下信越本線黒井駅に連絡し、新黒井から浦川原に至る 15 km の旅客および貨物運輸の鉄道で単線、動力は蒸気および内燃、軌間は 0.762 m である。大正元・8・6 免許、同

